



JONAN TIMES

発行■長崎県立
大村城南高等学校
〒856-0835
長崎県大村市久原
1丁目416番地

大村城南

検索

インターンシップ

1年生161名は、12月13日（火）からの3日間、職業観を育成するため本校近隣の事業所でインターンシップ（就業体験）をしてきました。



御協力いただいた企業の皆様どうもありがとうございました。職場での体験を通して、さらに就職・進学に向けての意欲も増し、大村城南高校の1年生のライフプランが明確なものになってきました。

球技大会

12月21日（水）に全校生徒がサッカー、卓球、バスケットボールの3つの競技に分かれて球技大会を行いました。



笑顔にまつわる話をもう一つしましょう。昨夏に行われた九州地区高校生介護技術コンテストの話です。九州地区のレベルは非常に高く、佐賀の嬉野高校は何度も日本一になっています。昨年度は嬉野高校が全国1位、長崎県大会で本校を僅差で上回った長崎玉成高校が全校3位でした。今年度の九州大会は、やはり嬉野高校が1位で全国切符をつかみました。しかし、個人的には、沖縄の真和志高校の方が心に残りました。技術の優劣はよくわかりませんが、真和志高校の生徒の自然な笑顔と声かけには心を惹きつけるものがありました。練習してきたことをマニュアルに則って課題に対応するのではなく、本当に自然に身体全体から発せられた笑顔であり、声かけであるように感じたのです。そのように感じたのは私だけではなかったようです。11月の全国大会では、真和志高校が1位で、嬉野高校が2位でした。

2学期に本校の福祉部が大村市の第1期票育CREWに認定され、様々な活動を行って成果をあげてきました。その際、何度か園田裕史大村市長のお話を伺う機会がありました。別の会で祝辞を述べられた時も感じたことですが、園田市長の言葉は本当に心に響いてきます。用意された原稿を読み上げるのではなく、自分の経験を踏まえて自分の言葉で自分の思いを語っていらっしやると感じました。マニュアル通りの言葉や頭で考えた言葉ではなく、身体から発せられた言葉だからこそ、聞き手の心に響いてくるのです。

（3学期始業式校長訓話の一部）

人文自然系列 中国語・韓国語も勉強できる

大村城南高校では、様々な系列に別れ、体験を基に勉強を進めていきます。その中で、「普通高校」と同じように普通教科の勉強を中心に行っていくのが人文自然系列です。4年制大学・短期大学・看護医療系専門学校への進学を目指している人たちの学力の充実を図ります。さらに、英語以外にも中国語や韓国語の勉強もできます。これからのグローバル化社会の中で、英語・中国語・韓国語の力は、今後重要になると思われます。

福祉系列 『J★カラフル』福祉新聞を発行しています



福祉系列3年生が、福祉の魅力を伝える「J★カラフル」新聞を発行して今年で3年目となりました。現在、第6号まで発行し、読者の皆様から「福祉を身近に感じることができた」「次号はこういった内容を取り上げてほしい」などの声をいただき、それらの声が生徒の励みとなっています。福祉とはすべての人の幸せを実現する取り組みや考え方を意味します。これからも幅広く、福祉に関する情報を発信していきたいと思います。次号は7号（2月下旬発行）は、福祉の視点から見た震災について特集します。ぜひご一読いただき、ご感想などをいただければ幸いです。

手芸部

手芸部は、2年生3名、1年生4名で活動しています。共同作品のパッチワークタペストリーと個人作品の刺しゅうを製作し、城南祭で展示しました。パッチワークのピースを縫い合わせる作業は、正確さ、忍耐が必要ですが、夏休み中も頑張って製作しました。刺しゅうは、図案決めから各自で行い、糸の色や太さを変えることによって作品に変化をつけました。現在、ヨーヨーキルトを用いた12カ月のミニ壁かけを製作中です。





食品製造部

1年生13名、2年生10名の合計23名で活動しています。活動内容としては、廃棄物として処分されていた小麦の二番粉の有効活用や、大村城南高校の圃場で生産された農産物を利用した新しい加工品の開発に取り組んでいます。今年度はねんりんピックの会場で、大村市で有名なゆでピーナッツを原料としたマドレーヌをおもてなしとして配布しました。大変喜ばれ、作る楽しさを再確認しました。

2月の主な行事予定

- 1月26日(木)～2月1日(火) 3年生学年末考査
- 2月3日(金) マラソン大会
- 2月7日(火) 推薦入試
- 2月9日(木) 総合学科発表会
- 2月17日(金) 大村地区4校合同学校説明会
- 2月17日(金)～23日(木) 1・2年学年末考査



写真は去年のもの